

# 「たばこ病をなくす横浜裁判」応援署名のお願い

「たばこ病をなくす横浜裁判」は、2005年1月19日、横浜地裁に提訴されて3年が経過しました。この裁判は、長年の喫煙の結果、肺気腫や肺がんになった水野雅信さん、森下賢一さん(故人)、高橋是良さんが原告となって、たばこ病のない社会をめざして立ち上がった裁判です。原告は、JT(日本たばこ産業株)と国を相手取って、自動販売機での販売差し止め、警告表示の強化などを求めています。

## ■ 「横浜裁判」を勝利させるため、支援の輪を広げて全国的な闘いに

いま、毎年10万人以上の人々が、喫煙が原因で亡くなっています。この数字は、自殺の3倍、交通事故の20倍近い数字です。たばこは肺がんをはじめ重い病気を引き起こしますが、COPD患者だけでも、500万人以上が存在していると指摘されています。ご本人だけでなく、ご家族の苦闘や悲しみを思えば、このまま放置できる問題ではありません。

受動喫煙の被害も大きく、昨年、タイ・バンコクで開かれた「たばこ規制枠組み条約」(FCTC)の「第2回締約国会議」(COP2)では、「無煙社会をめざしてのガイドライン」が満場一致で採択されました。

## ■ JTの企業責任を問い、日本政府の政策転換を求める裁判

長年にわたる政府のたばこ政策は「人命より税収」です。それと一体のJTによる「人命より儲け」の販売戦略がいかにか国民を苦しめてきたか、それが問われています。裁判では、JTの違法性、欺まん性が次々に明るみに出ています。

もし、コーヒーであれ、食品であれ、有毒物の含有が明らかになったら、直ちに生産・販売は禁止され、政府の指導・監督責任が問われます。今回の「毒餃子事件」はまさにその通りの展開となっています。たばこだけは例外で、「がんになる危険」や「依存症」まで、様々な警告を行ってしながら販売されている「商品」というのは如何なものでしょうか。

横浜での裁判は、政府のたばこ政策を大きく変えることとなります。この裁判に日本人の現在と未来の健康がかかっているとも言えましょう。応援署名とカンパを全国に広げたいと存じますので、ご支援を心からお願いいたします

## ■ 「たばこ病をなくす横浜裁判」 応援署名・カンパ 呼びかけ人(50音順・敬称略)

- |                                   |                          |
|-----------------------------------|--------------------------|
| 曾田 昭一郎(市民のためのがん治療の会代表)            | 中山 脩郎(神奈川県内科医医学学会会長)     |
| 大島 明(大阪府立成人病センター<br>がん支援相談室所長)    | 中西 又三(中央大学法学部・法務研究科併任教授) |
| 大橋 巨泉                             | 野末 悦子(産婦人科医師)            |
| 高 信太郎(漫画家)                        | 平間 敬文(医師/全国禁煙・分煙推進協議会会長) |
| 作田 学(日本禁煙学会理事長)                   | 藤倉 皓一郎(同志社大学法科大学院教授)     |
| 下山 房雄(九州大学名誉教授)                   | 三上 満(教育評論家 元全労連議長)       |
| 関根 透(鶴見大学歯学部教授)                   | 宮崎 恭一(日本禁煙協会会長)          |
| 富山 洋子(特定非営利活動法人<br>日本消費者連盟代表運営委員) | 山田 卓生(日大法科大学院教授)         |
|                                   | 渡辺 文学(たばこ問題情報センター代表)     |

◎ 私は「たばこ病をなくす横浜裁判」の勝利を願い、応援します。

氏 名	郵便番号	住 所

【署名送付先】 〒102-0072 千代田区飯田橋2-1-4 九段セントラルビル 203  
たばこ病訴訟を支える会 TEL:03-3222-6781 FAX:03-3222-6780